

ともしび通信

教会設立 35 周年記念

特別伝道礼拝

テーマ：「今ある私、これからの私」



6 月 26 日 (日)

I 礼拝 AM 10:30 ~ 12:00

II 礼拝 PM 2:30 ~ 4:00



特別講師：馬場 善鶴（ばば よしつる）先生

長野バプテスト教会牧師、関西単立バプテスト神学校理事

1953 年に長野県長野市に生まれる。15 歳の時に聖書とクリスチャンに出会い、イエス・キリストを信じる。18 歳で将来、牧師・伝道者になる決心を固め、社会人（エンジニア、営業職）を経て、26 歳で関西単立バプテスト神学校に入学。卒業後 1985 年に長野市で教会をはじめ、今年で 31 年目となり、明るいその笑顔で様々な悩みを抱える方々へ "Good News" を届け続けている。家族は妻・菜穂子、子・二男一女（社会人）。

※ 詳しくは長野バプテスト教会ホームページを参照ください <http://nbc-net.org/>

「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」（旧約聖書・イザヤ書 6:8）

今年で設立 35 周年を迎える当教会では、感謝と新たな希望への一步を胸に、特別礼拝を行います。講師は長野バプテスト教会の馬場善鶴先生です。ぜひこれを機会に「いま」と「これから」を分かち合うときを持ってみませんか。ご来会を教会一同、お待ちしております。

町田バプテスト教会
町田市つくし野 2-31-4 【TEL】042-796-3822

集会のご案内

教会の活動はホームページでもご紹介しています。
<http://goodnews194.com>

日曜礼拝

多忙な日々の中で、うつむき加減になっている顔と心。天を仰いで生きる元気を取り戻して下さい。

毎日曜

I 礼拝 10:30~11:50

II 礼拝 16:00~17:00



教会学校（CS）

幼児から大人のクラスで聖書を学んでいます。ジョイジョイサンデ이를月 1 回、開催しています。

毎日曜 9:00~10:00

毎月第 4 日曜

ジョイジョイサンデー
（こども・中高生対象）



水曜礼拝・祈り会

週の半ばの夜、静かに礼拝して、メッセージに耳を傾けます。聖書を順番に学んでいるので、聖書を知りたい方に最適です。

毎水曜
19:30~21:00



壮年会

壮年会では聖書の学びと、賛美集会や教会カフェ、日帰り温泉などサークル的な活動もあります。

毎月第 2 日曜

13:30~15:00



婦人会

日曜午後の集いは個々に抱えている課題を話しあい、喜びも困難も分かち合う、穏やかなひと時です。

毎月第 2 日曜

13:30~15:00



青年会

大学生から社会人まで、月 1 回、ともに集まり賛美をし、語り、励まし合い、祈りあう集いの時です。

毎月第 2 日曜

13:30~15:00



子育てサークルハンナの会

ハンナの会は、子育てに疲れたり、悩んでいるママに元気を与える会です。お子さまと一緒に楽しむ時間もあります。昼食付き。

毎月第 3 火曜

10:30~13:00



トールペイントサークル

賛美とメッセージのひととき。花を描きながら心を解放するひととき。お茶を飲み、語らうひととき。

毎月第 1 水・金

10:00~12:30



木曜婦人集会

家事、育児、仕事に忙しい女性たちがあいのままの自分でいられる場所。希望と勇気が与えられる時。

毎木曜

10:30~12:00

（第 2 木曜は婦人礼拝）



- ・どの集会も参加自由です。お気軽にお越しください。
- ・質問や相談ごとは、どんなことでもお尋ねください。
- ・送迎の必要な方は、ご遠慮なくご連絡ください。

編集後記

「ともしび通信 82 号」をお届けします。教会設立 35 周年を記念する礼拝のお知らせです。昼食は BBQ。雨が降っても大丈夫、テントが張られるからです。お気軽にお越しください。歓迎します！



単立 町田バプテスト教会

町田市つくし野 2-31-4 ●<http://goodnews194.com>

042-796-3822

●[mail:machida@church.email.ne.jp](mailto:machida@church.email.ne.jp)



希望と平安は神から与えられるもの

19歳の春、興味本位で行った教会で、「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。―主の御告げ―それはわざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。(エシミヤ書29章11節)」と言う聖書のことを聞きまし

牧師室より 松本俊雄 牧師

それまで、平安や希望は自分の努力や頑張りで得るものだと思っていました。そして、自分の人生が上手くいかないのは、まだまだ努力や、頑張りが足りないからと思いつつも、なかなか十分に頑張ることができず、不本位な生活をして



しまい、落胆と自己嫌悪の日々を過ごしていました。しかし冷静に考えると、人間の欲望はきりがありません。どこまで行っても平安や希望を得ることはできないだろうと、何となく感じていました。そのためか、このみことばを聞いた時、「神から与えられる」ということばに、強く関心を持ちました。自分の人生で、富や名誉などを得ることは無理でも、せめて「平安」は欲しいと思い、信仰を持ちました。

いろいろな機会に他の人に用事を頼む事があります。その時、良い返事をする人に出会うと、本当に嬉しくなります。その反対に無言の人、ぶっきらぼうな返事をする人、自分に都合の悪い事には聞こえないふりをする人、できない言い訳を長々と話す人などに出会うと、こちらの気分まで落ち込んでしまいます。人間関係の出発点は「あいさつ」と「返事の仕方」にあるように思います。

ではないかと示されました。そこで、努めてどんな時も心のこもった良い返事をするようにしました。特に、自分の仕事を急いでしている時なども、何とか工夫をして良い返事をして、頼まれたことは出来るだけすぐには出来るように心がけました。その結果、忙しくはなりませんが、多くの方々との信頼関係が生まれ、次の仕事へとつながっていききました。また、信頼からこちらの忙しさも相手の方が十分理解してくださるようになり、協力関係も高まっていきました。良い返事は人生を変えます。



私的映画批評

「50/50 フィフティ・ファイティ」

2011年 米作品

松本勇哉

「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」

27歳のアダムは真面目で酒もタバコもやらない。そんな彼が、ガン宣告を受ける。そのガンの、5年生存確率は50%だった……

闘病映画ではあるが、よくあるお涙頂戴ではない。コメディだ。「コメディ! (怒)」と思うかもしれないが、ちょっと聞いてほしい。

この話は実話なのだ。ガンになった脚本家の体験を映画化したものであり、アダムの友人カイル役も友人本人が演じている。CT画像も脚本家自身のものとか。



友人がガンになった時、人はどうするか。アダムの同僚達も最初はやさしく、泣いてくれる。だが、それだけだ。その後、誰もアダムに接しなくなっていく。

ただ、カイルだけは違った。観ればわかるが本当にしようもないヤツだ。しかし、決してアダムから離れず、見捨てることはない。

冒頭の聖書を出した。もちろん、聖書における「わたし」は友人ではないが、自分が一人になっても「決して離れない」こと。それが、どんなに心強いかわかる。教えられる作品だった。(注: 脚本家は生きています。)

★この映画をオススメする方★
これから一生の友達を作っていく学生たち

婦人会リレーアナタに出会えて嬉しい



加藤和子

イエス・キリストに出会ったのは16歳の時でした。

高校進学を望めないうち職組が半数以上もいた時代に私は看護師を目指し、ある開業医に就職しました。しかし夢が大きかっただけに社会の現実につまずき、うつになり、周りの人々を当惑させてしまったのでした。そのような時、私に声をかけて教会に行くように勧めてくれたのは勤め先の奥様でした。小学校時代から憧れていた教会に行けると思った私は、うつ症状もすっかり癒されて、教会

に通うようになり、神様は私の願いに答えて下さり看護学校の門を開いて学ばせて下さいました。また在学中、聖書研究会に入部し、それまでになかった学びの機会も与えられたのです。

あれから50年近く経ち、試練もあり、失敗も繰り返しました。それでも神様の恵みは計り知れない程大きいものでした。天国に行く日までイエス様は今も共に歩んでくださると信じています。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(新約聖書ヨハネの福音書3章16節)

シリーズ 私のお気に入りの

My favorite



市川渉

この7月で2歳になる娘は、私のスマートフォンを持ち、「はいチーズ!」と言って写真を撮る真似をするのがお気に入りである。

ここに私が娘と同じ頃の写がある。父のお気に入りの眼鏡を持って遊んでいる姿で、娘とそっくりで好奇心旺盛な顔をしている。私は思春期に入るまで、父の双眼鏡を外を眺めるのがお気に入りだった。父はよくこう言ったものだ。「双眼鏡は、遠くは見えないが、手元が見えない。夢は遠く大きいであらう。」

のも良いが、双眼鏡のように手元が見えず幸せになれない。」

若者の夢は遠大なのが普通だが、いつしか私もご多分にもれず遠大な夢を抱くようになった。社会人になって10年が過ぎ、米国のビジネス・スクールへ行く準備中、父が認知症と診断された。病は初期だったので渡米するか悩んだが、父と一緒に時間を過ごすことを選んだ。結果は正解だった。介護は大変だったが、父との平穏な生活が幸せだった。また、妻とも出会えて娘に恵まれたし、神様にも出会えて、救われた。あの時米国へ行っていたら大きな富や地位を手に入れたであろうが、今のようないきまはなかつたであらう。